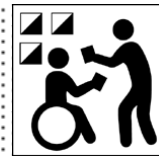


トレイル0 NOW!



IOFトレイル0
コミッション
こやまたらう

トレイル0 競技規則変更

IOFのトレイル0競技規則の変更に伴い、日本でもタイム・コントロールの実施方法が大きく変わり、日本競技規則の正式改訂前に、9月1日から先行実施された。→日本競技規則の正式改訂は今年度中を予定)

2014年1月、IOFではトレイル0の競技規則の大幅な改正を行い、今年のイタリアでのWTOC2014は、その新ルールに基づき競技が運営された。

主要改正点のうち、日本競技規則改定にも反映されることが確実である。タイム・コントロール実施方法の変更については、8月31日付でJOAトレイル0委員会から通知が出され、さる9月7日の「つるまい大会」および、9月20日の「福島大会」において、日本競技規則の正式変更へ先駆けて実施が開始された。11月のJTOC(日本トレイル0選手権大会(いわゆる「全日本トレイル0選手権大会」)においても新方式となる予定。

◆タイム・コントロール(T/C)関係が、テンポ(Temp0)の競技形式に大きく近づいた。

- 1、Pre0(プリ0)コースには、少なくとも2か所のT/Cが含まれること。(規則16.8 WTOC)
- 2、T/Cでのフラッグの数は5個または6個とする。←201年3に改訂済み、WTOC2013、2014ではすべて5個であったが、テンポと同じく6個のフラッグの仕様が認められている。
- 3、T/Cは従来と同じ1か所で1課題を行うシングルT/Cと、1か所で2課題以上を行う複合(マルチ)T/Cの2形式に分かれる。(Single Timed Control, Multiple Timed Control)
マルチT/Cでは、テンポ(Temp0)形式と同じく1か所で複数課題を回答する。(注：この方法が、今後世界的な主流となることは確実。)
- 4、複数課題を回答するマルチT/Cの場合は、課題順に正しく重ねられたマップセットが机上におかれるか、競

技者に渡される。マップセットはバラ地図を課題順に重ねたものか、上部をリングなどでバインドしてある2種類が用意される。いずれの場合も、1枚目はカバーとなっており、競技者は課題地図を見ることは出来ない)

競技者はどちらのタイプのマップセットを使用するかをその場所において競技開始前に選択する。(17.3)

- 5、係員の「タイム・スタート・ナウ(Time starts Now)」(今までの日本流でいえば「ハイ、どうぞ」または「では、始めます」)の口頭指示で競技者はカバーをめくり1枚目の地図を開いて見ることが出来、それと同時に計時が開始される。時間計測は二人のストップウォッチ計測者、または電子式ユニットにより行う。(注：現時点ではIOFの認めた電子式計測ユニットはない)
- 6、課題に対するフラッグの選択回答は、口頭回答、アルファベット・ボードの指さしのどちらでもよい。回答(指さし、音声)が、次の課題(地図)に対する「タイム・スタート・ナウ(Time starts Now)」の合図となり、競技者は次の課題地図を見ることができる。←WTOC2014では、口頭回答とボード指さし回答が異なった場合は、口頭回答を優先とした。
(参考：口頭回答=国際アルファベット表音法)
アルファ Alfa、ブラーヴォ Bravo、チャーリー Charlie、デルタ Delta、エコー Echo、そして“F”はフォックス・トロット Fox-trot)
- 7、複数ある設問の最後の課題に対する回答がなされたときに時間計測が止まる。
従来のように一つの課題ごとの回答時間計測はせず、複数課題のすべての回答に要したトータル時間を計測する。(=Temp0方式)
- 8、T/CにおいてはZeroアンサー(正解なし)コントロールは、従来どおり

設けない。(Temp0にはZeroがある)

- 9、設問ごとの正解・不正解をチェックするが、正解であっても従来のような得点ポイントとはならなくなった。したがって、得点となるポイントは、T/Cを除いたコース・コントロールに関するもののみとなった。(25.1)
ただし、T/Cにおける設問ごとの正解・不正解は、ペナルティ・タイムとして反映される。(25.2)
- 10、各タイム・コントロールでの(回答)制限時間は、「課題数×30秒」と短くなった。(課題ごとに制限時間は計測しない)(17.6)
たとえば3問の課題が出された場合は、そのT/Cでの回答制限時間は、30秒×3問=90秒となる。トータル・タイムであるので、ある課題の回答時間が30秒を超えても、全体で90秒以内に3問を回答すればよく、ペナルティとはならない。(1課題のシングルT/Cの場合でも、回答制限時間は従来の60秒から30秒と短くなった。)
- 11、T/Cでは、各課題に対する回答と、合計所要時間が記録される。
(注：従来のような1課題ごと60秒の制限時間ではなく、「(そのTCにおける)総合計所要時間」という表現をしている。Pre0競技のタイム・コントロールにおいても、テンポ競技のようなトータル・タイムの計測方式への移行を示している。)
- 12、競技者は、関連する課題地図を見ている間に回答しなくてはならない。回答前に次の地図を見たり、前問の地図を見返したりした場合は、そのT/Cでの回答の全てが「不正解」となる。
- 13、制限時間内に回答できなかった課題は、「不正解」とみなされる。たとえば、あるT/Cで3課題出された場合、制限時間の90秒以内に2問しか回答できなかった場合は、残った1課題は「不正解」扱いとなる。

14、ペナルティ・タイム：

- ・間違っただけをした場合は、次の時間が加算された成績となる。
- ・(1問のみのシングル T/C の場合)： 30 秒以内に回答できなかった場合 = 90 秒 (従来は 120 秒)
- 30 秒以内に回答したが間違っただけの場合 = 回答に費やした時間 + 60 秒)
- ◎ (複数課題のマルチ T/C の場合)： 回答に費やした時間 + 間違っただけの回答 1 問 × 60 秒)

15、プリ 0 (Pre0) 競技における T/C 用マップのサイズが、テンポ競技用と同一サイズに規定された。(15.7)

以上、タイム・コントロールでの手続き変更を主として述べたが、新しい IOF トレイル 0 競技規則(2014 年版)にその詳細が載っているのので、ぜひ一読されたい。

<http://orienteering.org/wp-content/uploads/2010/12/Competition-Rules-for-IOF-Trail-Orienteering-Events-2014.pdf>

なお、IOF 競技規則の日本語訳版を希望される方は JOA トレイル 0 委員会 小山までご連絡ください。
taro-ktrailo@xb3.so-net.ne.jp

■また、競技規則改定にあわせて Trail0-er のための「コントロール・セッティングの虎の巻」ともいえる「テクニカル・ガイドライン」の見直しも行われた。その中の Appendix 2(付録 2)に、具体的な「T/C の実施方法」が解説されているので、ぜひ一読をお勧めする。

<http://orienteering.org/wp-content/uploads/2010/12/IOF-Technical-Guidelines-for-Elite-Trail-Orienteering1.pdf>

■Pre0 Relay (リレー方式の トレイル 0) の導入時期が 2016 年と決定。

すでに北欧諸国ではリレー方式によるトレイル 0 が試みられており、IOF でも今年から試行を始めた。今年はずべての競技が終了した日の翌日の午前に行われた。(詳しくは茅野さんからの別稿を参照)。

スウェーデンで開催予定の WTC 2016 からは、この方式が WTC における国別対抗チーム競技として採用される見込みである。(現在は事前登録したクラス 1 名を含む合計 3 名の選手の、プリオ第 2 日目の成績(合計)によって、優勝チーム(国)が決まっていた。)

以下にリレーの競技規則の草案(Draft)が載っているので、ぜひご覧ください。

<http://orienteering.org/wp-content/uploads/2010/12/Pre0-Relay.pdf>

(こやま たろう)

JOA トレイル 0 委員会からの 通知文

2014 年 8 月 31 日
JOA トレイル 0 委員会

タイムコントロール新方式の前倒し実施 について

今年の世界選手権大会より、タイムコントロールの方式が変更となりました。委員会としては国内の大会でも、速やかに新方式を導入して、世界の動向に合わせていきたいと考えています。本来であれば競技規則の改正を行うところですが、それにはどうしても時間がかかります。つきましては本通知によって、国内大会における、新方式でのタイムコントロールの前倒しの実施を承認いたします。大きな変更としては、タイムコントロールでの正解数が得点に加えられなくなったこと、一カ所のタイムコントロールで複数の課題に回答することが標準になったことです。以下に変更点をあげます。言及がない点については、現行の競技規則に従ってください。

地図

通常の競技(以下「プリ 0」と称す)およびテンポのタイムコントロールにおける地図の形状は、円形もしくは正方形とする。円形の場合は直径が 5cm ~ 12cm、正方形の場合は一辺が 5cm ~ 12cm とする。いずれの場合でも、コントロール円は地図の中心に位置させる。全てのタイムコントロールで使用する地図は、同一形状、同一サイズでなければならぬ。地図は地図サイズより大きいしっかりした材質のものに固定させる。地図には、ディビジョンポイントから見たフラッグサイトと同一のエリアが含まれていなければならない。タイムコントロール用の地図には、各地図の上部に磁北表示が、下部にはコントロール位置説明が表記される。

1 か所で複数の課題を解くタイムコントロール用の地図には表紙を付ける。競技者には 2 種類の地図セットを提供するのが望ましい。ひとつは綴られたもの、もうひとつは綴られていないもので、この場合、競技者はどちらの地図を使用するかを各タイムコントロールで選択する。

コントロールの設置とディビジョンポイント

コントロールにおけるコントロールフラッグの数は、1 個から 5 個までとする。ただし、タイムコントロールにおけるフラッグの数は、5 個または 6 個と

する。

コントロールフラッグは、ディシジョンポイントから見るとおりに、遠近に関係なく、向かって左から右にA、B、C、D、E、Fと指定される。

タイムコントロール

コースにおいて、コントロールフラッグ群を確認し回答するまでに要する時間を計測する、特別に設けられたコントロールをタイムコントロールといい、「TC」と略す。

プリ0のコースには、1か所あるいはそれ以上の数のタイムコントロールを設定する。各タイムコントロールでは複数の課題を設定することを原則とする。ただし、BおよびNクラスにはタイムコントロールを設けなくてもよい。

テンポのコースには、少なくとも4か所のタイムコントロールを設ける。各タイムコントロールでは、少なくとも3問の課題を設定する。

タイムコントロールの数並びに各タイムコントロールにおける課題数は、プログラム・公式掲示板・現地での表示・口頭等により、競技者に周知する。

タイムコントロールで使用する範囲については、競技者用の地図にその地形や特徴物などの情報を表記してはならない。

タイムコントロールでは、競技者は役員の指示に従ってディシジョンポイントに誘導され、その場に着席し、全てのコントロールフラッグが視認できる事を確認する。1か所で複数課題を解く場合、役員からタイムコントロール用の整置された地図セットが、手渡されるか、競技者の前に置かれる。2種類の地図セット（綴られたもの、綴られていないもの）が提供された場合、競技者はどちらの地図を使用するかを選択する。開始の合図（国際標準例：「タイム・スタート・ナウ (Time Starts Now)」）で計時が開始され、競技者は表紙をめくって1枚目の地図を見ることが出来る。1枚の地図のみの課題の場合は、計時開始の合図と同時に地図を手渡される。

競技者は、当該課題の地図を見ている間に回答しなくてはならない。回答前に次の地図を見たり、前問の地図を見返したりした場合は、その地図における回答は不正解として扱われる。

競技者がそのタイムコントロールで

の最終課題を明確に回答した時点で、役員は計時を終了する。回答はアルファベットを表示した板を正しく指で示すか、または口頭で（国際標準例：国際音声アルファベット表音法（Alpha アルファ、Bravo ブラヴォ、Charlie チャーリー、Delta デルタ、Echo エコー、Foxtrot フォックス・トロット、Zero ゼロ））行うが、主催者が認めた回答のための電氣的機器を使用してもよい。

タイムコントロールの制限時間は、課題数×30秒とする。1課題のみの場合は、60秒としてもよい。1カ所で2課題までの場合は制限時間10秒前に、3課題以上の場合は制限時間20秒前に役員が警告を行う。

競技者の各課題の回答とともに、合計所要時間の秒未満の端数は、これを切り捨てて記録される。

制限時間内に回答がなかった課題については、不正解として扱われる。

ストップウォッチを使用する場合は、2名の役員により計時が行われなければならない。

プリ0のタイムコントロールでは、いわゆる「正解なし (Z)」を正答とする課題を設定してはならない。テンポでは「正解なし」を正答とする課題を設定することができる。

順位、成績および表彰

プリ0のタイムコントロールを除く各コントロールにおいて、正答の場合は競技者に1点の得点が与えられる。

プリ0のタイムコントロールにおいては得点が与えられず、制限時間内の正答の場合は、その回答所要時間が記録される。不正解の場合は、回答所要時間にペナルティとして不正解1問について60秒が加算される。制限時間内に回答がなかった場合は、制限時間にペナルティとして無回答1問について60秒を加算した時間が記録される。

タイムコントロールの回答所要時間は、1カ所につき2名の役員により計時された結果の平均を、0.5秒まで有効として算出する。電子機器を使用している場合は、秒未満の端数を切り捨てて記録する。

1レースにつき複数のタイムコントロールが設置される場合は、全てのタイムコントロールにおける回答所要時間を合計して記録する。ストップウォ

ッチによる計時の場合は、0.5秒まで有効な値として記録される。これは複数レース競技においても適用される。

プリ0において、競技者は得点の合計によって順位がつけられる。同点の場合には、タイムコントロールにおける回答の所要時間により順位がつけられる。得点が多く、回答の所要時間の短い競技者が上位となる。

テンポにおいて、競技者は各タイムコントロールでの回答所要時間の総合計に、間違った各回答につき30秒のペナルティを加えた成績により順位がつけられる。

以上です。大会主催者の判断により従来の形式で行うことも可能ですが、委員会としては新方式での開催を奨励いたします。いずれの場合も、プログラム等で参加者に競技方法を周知し、混乱のないようお願いします。特に新方式で開催の場合には、説明用のタイムコントロールを設ける等の配慮をお願いします。

(以上)